

STRASBOURG FRANCE

# 第38回

# ヨーロッパ・キリスト者の集い

## 証と感想



### イエス様もこの列車に

Fredrich 村上希與子

北ドイツJCF

第38回「集い」が、滞りなく開催されたことを心より感謝します。

出発前、高齢者の私が、無事に一人旅ができるか、しかも言葉のわからない国に行けるか、など不安材料が沢山ありましたが、参加して良かったです。

大会では、沢山の恵みを頂きました。メッセージ、早天祈祷会、スモールグループでの交わり、若い人達の賛美と証、美味しいお食事、宗教改革の跡を辿る街のご案内、などなど、筆舌に尽くせません。昔なじみの信仰の友たちとの語らいも楽しく、あっという間に最終日になりました。

実行委員会の方々は、コロナ時代の中、大変なご苦勞をされたことと察します。特に、実行委員長の安藤里佳子先生は、日本からお働きくださって、ありがとうございました。また、コロナ対策という今までなかった仕事に加わり、委員は、本当に大変だったことでしょう。トイレの消毒係は、休み時間ごとに、働いてくださいました。食事の時も、カウ



ターで混み合わないように、心配りが充分になされていて、本当に主の御愛あふれる大会でした。

証しが一つあります。

帰りの列車が、キャンセルになり、スケジュールががたがたになりました。途中、乗り継ぎの際、アナウンスが充分されないうちに、別のホームから、予定の列車がスーッと出ていってしまいました。

途方にくれた人達は怒髪天（どはつてん）を衝く様子。なんとか、Frankfurt で、臨時列車を捕まえて乗ることができました。道中、怒り、不安、不満などがふつふつと出そうになりましたが、祈っていると、マイヤー先生のメッセージが私の心に浮かんできました。

「そうだ、きっと、イエス様もこの列車と一緒に乗ってくださっているに違いない、ひょっとしたら、どこかの車両で眠っておられるかも。」そう思うと、平安が与えられ、

3時間

近く遅れましたが、深夜我が家にたどり着けました。

主の御愛に包まれた4日間でした。栄光在主



## 開催に至るまで

安藤 廣之

ミュンヘン日本語キリスト教会

思えば2019年夏のクルージュの集いの代表者会では2年後の集いの開催が「保留」になりました。それは今までと違う事であり、私にはかなり消化不良でした。ただ次の日の分かち合いでその件を話した所、M兄やT兄が集いを何としても継続したいと願っている事を知りました。

更にその年の11月の教職者研修会でマイヤー先生や清水勝俊先生と同じテーブルで食事をした際、21年の集いを自分の居る教会とその信徒有志で何とか開催しようと言う事になり、そのテーブルに居合わせた方々と21年集い開催の為に祈り会をスカイプで行う様になりました。

又その頃には既にT兄が今回の会場を押さえて下さった事により、開催が具体的になってきました。更にその年の暮れにはF兄がミュンヘンに引っ越して来られ、彼が特にユースプログラムに重荷を持っている事が分かりました。そうこうしている内に祈り会で私か妻（里佳



子)が準備委員長を務めるのはどうかと推薦され、既に帰国していた妻が担ってくれることになりました。

昨年始めからのパンデミックで開催が危ぶまれましたが、何としても集っての開催を願う兄弟達の祈りと熱意によって制約の中でも実現できたことは大変感謝な事でした。今回の集い開催の為にこの様な事が言わば水面下で行われていましたが、それこそ主の備えに他ならないと思い、御名を崇めています。

## 10年ぶりの再会

ゲルスタ・ウェンディ

スイス日本語福音キリスト教会

10年ぶりにやっとまた”キリスト者の集い”に参加できました。10年前、ケンブリッジでの集いで知合った二つの違う国から来られた二人の姉妹とストラスブールで再会した時、姉妹は私のためにずっと祈ってこられた事を知り、大変感動しました。

主の家族の中にある素晴らしい交わりと絆にもう一度気づいて、感謝です。



## 体力に敬意、寛大さに感謝！

石引 正志

ストラスブール・聖書のお話を聴く会



牧師の話は長くなるとよくいわれますが、今回の講師の先生方は正確に時間を守られるのに感心しておりましたら、タイムキーパーがきちんと監視しておられたと、後から聞きました。

ところが私の担当した市内ツアーには、タイムキーパーがおらず、1時間半と予告されていたにもかかわらず、大幅に（詐欺的に）オーバーしました。申し訳ありません。

早めに途中から抜けたひとは正解。最後までつきあって下さった方には、その体力に敬意、寛大さに感謝です。それでも、3-4箇所は抜かしていますので、次の機会にどうぞ！（本人はまだ懲りていない様子）

今回、現地参加を許されたことについては、あえて国境を越え、他地域へと移動して参加して下さった皆様に心から御礼を申し上げます。この”集い”が流れていたら、私の現地参加の特権は幻と消えていたわけですから。

主の守りのもと、”集い”が今後も続けられますように。





## イエス様船長、かじを取る

フーヴェ久栄

ハノーファー聖書の集い

♪主の素晴らしさを味わい、これを見つめよ～♪詩篇34.8a

この集いのオスロ大会のテーマソングを口ずさみながら、神の家族と共に、毎回の美味しいお食事を感動して味わったストラスブル大会です。大丈夫かなぁと心配しながらも来て本当に良かった!

♪大きな船が出ていくよ、僕らを乗せて～、聖霊の風受けながら世界中回るよ。イエス様船長、かじを取る。船には賛美があふれてる～、オウ♪十数年前の修養会CSと一緒に踊りながら讚美した子供たちが、今や立派な若人達!まさに聖霊の風を受けながら進んでいる彼らの聖霊パワーに推されて実現できた今大会で、そのパワーを頂けて大感謝です。外は感染者が増えまくるコロナ大嵐、正に上記の讚美です。「そう、イエス様が一緒に乗っておられるのです。だから心配しなくて良いんです!」マイヤー先生が主日礼拝で力強くお語りくださいました。

4主催教会の念入り細心配慮、衛生部長のテキパキ指示で感染者ゼロ!で、主にある平安と共に帰路につきました。ありがとうございました。

♪幸いなことよ。彼に身を避ける者は～♪詩篇34.8b アーメン!



## 励まされ、希望をいただき、 シスター・ソハラ マリア福音姉妹会

コロナのただ中で開催された集い、決して忘れることのできないものとなりました。参加するべきかどうか、非常に迷い、私自身の正直な思いは、「キャンセルしたい」だったのです。そのため必要な準備も、直前までまったくできていない状態でしたが、神様は、たった一日のうちに起こった3つの出来事から、私の心に語られ、「安心して行きなさい。書籍を携えて!」と、明確な【事実=Fakten】を通して、ご自身の御心をはっきりと示してくださいました。

そして、私たちが神様の御旨に従う時、素晴らしい祝福が備えられていることも教えてくださいました。その通り、この第38回目集いは、私の思いをはるか



に超える希望と喜びを私の心に与えてくれたのです。私たちの将来であり、希望である若者たち、子供たちを通して!彼らから受けた祝福は、本当に大きなものです。今まではすれ違いがほとんどであった青年たちと共に過ごし、彼らの口から真実な証しを聞いたことは、何と大きな喜びだったことでしょうか!また子供たちの「お祈り隊」から祝福をいただけたことも!

このすばらしい4日間を備えてくださった御父、御子、御霊の神様に賛美と栄光を!そしてご労してくださった兄姉、お一人お一人に心からの感謝と主からの報いを願いつつ。



## 歴史に残る今年の集い

タンゲナ由香里

南オランダ日本語キリスト教会

素晴らしい主の御名を讃美いたします。

まず、この歴史的な集いに参加させていただいた主に感謝します。またそれを可能にくださった実行委員、み言葉を取り次いでくださった先生方、ボランティアのお一人お一人に心からお礼を申し上げます。

集いのご案内をいただいたとき、今回こそは、という思いですぐに申し込みました。第二回目から参加させていただいている古株です



が、四年前に乳癌の手術があって以来、孫が生まれる予定日だったり、仕事が忙しかったりでしばらく出席できないでいました。ですから、コロナが蔓延して、多くのリスクがあるのは分かっていましたが、今年こそはという思いは揺るがず、もしだめならきっと主が門を閉ざされるだろうと、迷いはありませんでした。

なぜ夏の集いはこんなにも私を期待に満ち溢れさせるのでしょうか。敬愛する懐かしいヨーロッパに散らされている姉に会えるのも勿論大きな魅力です。でも私にとっては、集いの真ん中にいつも愛するイエス様のご臨在がある確信があるからです。時に自分の期待通りでなかったりすることがあっても、集いが終わるころには、自分の中の様々なものが整理されまた次の一年のスタートラインに立たせてくださるのが感じられるからです。

今回も期待以上の喜びにあふれる集いの日々でした。特に多くのユースの方々に



そことご奉仕くださっていらっしゃる方々との交流は新鮮で、まさにたくさんの希望をいただきました。大人たちがコロナを前に立ちあぐんでいた時に、若い方たちが背中を押してくださったという事実を目の当たりにさせていただき、神様がこの集いを愛していらっしゃるのがよくわかりました。

はっきり言って、いつもより少ない人数は、昔のように出席者の方々全員が把握でき、色々な方たちと深いお話もできたので、私には大きな祝福にも思えました。集いの申し込みをされたけどキャンセルされた方々もほとんどの講演会、礼拝の間ズームでつながれたのもとてもよかったです。

決して失望に終わらない主にある希望！コロナ禍だけでなく温暖化や世界中で進んでいる分断化などで、何か不確かなものに囲まれているような感じが常にまわりついている昨今ですが、そこに目を奪われるのではなくしっかり主に焦点を合わせることによって、モヤモヤが取り去られ、主にある希望に満たされて帰ってまいりました。このような形で主のご栄光を間近に仰ぎ見られることを許され、ただただ感謝でした。今回様々な理由で参加できなかった姉姉の上に主が特別な祝福を豊かにお与えくださいますよう祈ってます。



コロナ禍ゆえに、逆に主がとても身近に感じられた今年の集いは、ヨーロッパキリスト者の間で今後も語り継がれ歴史に残っていくことでしょう。

「あなた方には世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい、私は既に世に勝っている。」 ヨハネ16:33

## 後ろから2番に

網屋千秋

パリプロテスタント日本語キリスト教会

私は何処に行っても1番身体が小さく1番年取っていて面白くありません。ところが今回の集いでは1番信仰がないなと思えました。3つもマイナス1番なのですが(実はもっと)神様はこんな私でも愛して下さっている事に実感があります。実に辛抱強く私が信仰を持てるように待って下さっています。感謝します。そろそろ後ろから2番になりたいです。



第38回ヨーロッパ・キリスト者の集い  
記録ビデオ (ダイジェスト版) <https://www.youtube.com/watch?v=VT7wXC9h6kg>



## キリストにある希望を確信

瑛美(えいみ)

スイス日本語福音キリスト教会

この困難な時代に、私たちはキリストにある希望、決して失望に終わらない希望を再確認することができます。それは、私たちが神様に人生を完全に委ねることができるからであり、イエス様はすでに私たちのために新しい天と地を与えてくださっております。

また、今この世界に平和がないように見えるときにも、私たちに平和を与えてくださるといことは、何と特別な祝福でしょうか。特にパンデミックの時期に、これほど多くの親愛なる兄弟姉妹に出会い、共に礼拝し、喜び、交わりを持つ



つことができたのは、なんという特権でしょうか。これは私にとって初めての集いでした。

神様が多くの日本人をヨーロッパに召してくださったことに、とても感謝しています。また、福音を伝えるために多くの若者が呼ばれています。

パンデミックの中、このような大規模な集会を開催することは、特に難しいことでしたが、とても思いやりがあり、愛にあふれ、注意深く行われました。

私はこの集いから、キリストにある希望を確信

し、ヨーロッパの日本人信者の間で

神が働いていることに驚き、皆さんにお会いできた喜びで満たされて帰ってきました。



## 感謝と覚悟

川上真咲

ブリュッセル日本語プロテスタント教会



今回は3年ぶりに集いに参加させていただきました。直前まで行かれるかどうか、会場の入り口でこのままUターンかも知れないという状況の中、

しかし針の穴を通すような展開で参加をゆるされ、豊かな恵みをもたらすことが出来ただけ感謝です。

新しい事が始まろうとしているこの時、しかしビザの取り直しや一時帰国など心騒がせられる事も多く、期待と不安の間を行き来する日々でした。そのような中で「彼らが日本語で主からの励ましの言葉を受け取って来られるように」という宣教会の同労者たちの祈りに押し出されるようにストラスブールへ向かい、そして祈りの言葉の通りに本当に力と励ましを御言葉を通して受けることが出来ました。

目に見える現実は何のようなものであれ、確かに主は生きておられ、主の御心だけが成る、その主に信頼して歩むという事は決して簡単な事ではないですが、「見ゆるところによらずして、信仰

によりて歩むべし。何をも見ずまた聞かずとも、神の御約束に立ち。」と賛美しつつ十字架を背負って一歩一歩御足のあとを辿って行きたいと改めて思われました。

改めて開催のために尽力くださったお一人お一人に心よりお礼申し上げます。



## 手の届かない所に

タリーサ久実・ウィットマー

スイス日本語福音キリスト教会

この度は集いに参加し、古い友人から新しい信仰の友まで主が豊かに与えてくださったことを感謝します。

一人で家でオンライン礼拝に参加する寂しい時期を経ての、ここまで沢山の兄弟姉妹との対面での交わりは本当に尊いものでした。また沢山の方の献身的な、右手の業を左手に知られないよう仕えられる姿に御霊の励ましと祝福を感じました。

みことばの取次に加えて、主の御国が近づいて福音が宣べ伝えられていることの視覚的なリマインダーをいただいたようでした。

主に感謝して御名を褒め称えます。その恵みはとこしえまで。



共に祈り、共に賛美する喜び

中村雄

ブリュッセル日本語プロテスタント教会



今回、初めて参加させて頂いた集いは、自分のこれまでの信仰生活の中で、間違いなく3本の指に入る幸せな経験となりました。

昨年突如世界を襲ったコロナ禍で我々の教会もオンライン化を余儀なくされ、一時は、離れていてもイエス様によって結ばれているということを現代のコンテクストで理解したような気になっていました。

その「思い違い」は、集い初日、開会式の最初の讃美歌を歌った時に粉々に砕かれました。信仰を共にする兄弟姉妹と、一つの場所に集って賛美を捧げる喜び。一年半近く、体が、心が希求していたもの。乾いた大地に水がしみ込むように心が潤い、喜びが涙となって溢れてくるのを抑えられませんでした。



そしてその感動は、その後のプログラムの中で、祈り、賛美し、講演で力強いメッセージに触れ、CS奉仕での子供たちと交わる中で、繰り返し、波のように押し寄せてきました。テーマである「キリストにある希望」を、これでもかと言う程、心の底から浴びる程に感じる事ができました。

改めて、2021年の集いの開催の為に尽力された実行委員の皆様、本当に、お疲れ様でした。状況や規制が時々刻々と変わる中、準備から当日運営まで、例年以上の緊張や労苦があったことと思われま。その中で、参加者全員が安全に健康に集いを終えられたこと、ひとえに皆様の尊いお働きであったことと思います。本当にありがとうございました。

舟の中で眠られるイエスさま

川上寧 (やすし)

ブリュッセル日本語プロテスタント教会

今回の集いにて、特に心に残った御言葉は、ヨハネの黙示録21章1-4節の御言葉と、マタイ8章23-27節の御言葉です。

黙示録の御言葉からは、この世では悩み、苦しみ、悲しみは尽きないけれども、来るべき「新天新地」においてはそれらが全て過ぎ去り、悪の根源が無くなり、神の清さで満たされる世界が約束されていることに、深い慰めと希望を見出すことができました。

マタイの御言葉からは、嵐が起こる湖に向かう舟にまずイエスさまが乗り込んで行かれたように、私たちが経験する人生のいかなる嵐においても、まずイエスさまがそこに乗り込んでくださることに平安を覚



えました。そして嵐のような状況であれ、神の平安の内にイエスさまは眠ることがおできになるのは、この世界を創られた方が、その造られたものによって揺り動かされる筈がないからであり、そのお方が私と共にごとくくださるのは、何と心強いことかと励まされました。このお方を信じ、信頼すれば良いからです。

集いに参加した後、送り出してくれた宣教団体の代表と言葉を交わした際に、「私たちは神さまを信頼している。でも、完全に信頼しきるのは難しい。」と語られた言葉が刺さりました。置かれた状況によって神さまへの信頼が揺らいでしまうことは確かにあるからです。

でも、嵐の中でも完全に安心して眠っておられたイエスさまのように、イエスさまの内に完全に信頼して生きるよう招かれています。この主に信頼して参りませ。主の平和。





## TSUDOI 2021

## 感想文

神様のおかげで集いで学んだことの一つを英語でシェアをさせていただきます。

During Yabuki-sensei's sermon on Joseph and temptation I understood the consequence of sin more deeply. Sin is not only bad in a moral or philosophical sense, but it is a direct offense to God. It directly affects our relationship with Him even when I might not see the direct link between a specific sin and God. We can learn that from Joseph's response to Potiphar's wife's invitation to sleep with him. In verse 9 of Genesis chapter 39 Joseph answers her the following "How then could I do such a wicked thing and sin against God?". By sleeping with her Joseph would not only have sinned against his future wife but directly against God.

I believe the more we realize the severity of our sin, the more we can thank God for redeeming us from it. Even though we sin against God every day His forgiveness and mercy is new every morning. The sacrifice of Jesus on the cross is powerful enough to cover all our past, present and future sins. That is incredible. As sinners, Jesus is our only hope but He also is the only hope that never fails.

Lord, I thank you for your sacrifice on the cross. Thank you that by faith we can have your righteousness on us, despite all our sins. Thank you that you have defeated sin. Thank you that you patiently teach me your ways. Help me to understand the consequence of sin more deeply. God, I need more of you in my life. Thank you that through your victory over sin on the cross we too can defeat sins in our lives. Help me to do this for your glory and not my own. Thank you also for this amazing Japanese church camp. Please bless every person who was involved with preparation and those who attended online or in-person.

Mark Grunkemeyer (スイス)

## 地上と天上の差

先ず、昨今のパンデミックの中でもこの集いが神様によって守られて最後まで行われたことに感謝します。

まさしく絶望とも言える中での開催で神様が本当に希望を見せて下さいました。

各セッションでのメッセージを聞き進める毎に、私たちが抱く希望と神様が考えておられる希望はそもそも同じものではなく、神様のそれはもっと高尚な私たちが想像もつかないようなレベルの希望と気付かされました。

しかし、そのような次元の違いすぎる希望を私たちの考えられるところまで持って降りて来て下さり、絶望に思えるような苦しさをを感じる時にも共にいて下さり御言葉を以って励ましを下さる神様にただただ感謝をおぼえた4日間となりました。地上での生活はまだまだ長いものですが、神様が私に示して下さいました希望を持ち、歩み続けたいと願います。

安味尚香 (なおやん) (フランス)





今年の集いが無事行えたこと、そして集いを通して希望を与えられ、力付けられたこと感謝しています。参加者一人一人と来れなかったけどズームを通して参加してくれた仲間たちを通してキリストにある一体感を実感することができました。これからも集まり続け、互いに励まし合いながら各地の人々を支えて行きたいと思っています。本当に神様ありがとう！ハレルヤ！

チャーリー (スイス)

Mir hat Tsudoi gefallen. Ich wäre gerne dort gewesen aber ich war nur online mit dabei. Ich hätte mir gewünscht, dass mehr Leute in meinem mitmachen würden und dass es mehr Spiele geben würde.

Lindermann Thomas Aki (ドイツ)



### キリストにある希望と平安と交わり

集い2021のTeens and Youth (T&Y)プログラム、僕にとっては、まず、13人のユーススタッフ(現地参加9人オンライン参加4人)と講師を引き受けてくださった矢吹先生・ヘーゲレ先生で、半年間かけて祈りつつ企画・準備・当日の運営を最後まで一緒にできたことが嬉しかった。また、初日の夜の集会でT&Yみんなと一緒にダンス賛美をできたこと、2日目の集会では前で一緒に踊ってくれるユースメンバーが与えられたことも、とても嬉しかった(ボンちゃん&マークありがとう!!)。ハイブリッド集会は思っていた以上に大変で、会場のWi-FiやZoomのセキュリティの影響か、上手くいかないことが何度もあった。それでも、みんなの協力とユーススタッフたちの機転の利いた対応のおかげでなんとか乗り越えることができた。僕自身はT&Yプログラムの参加者みんなとゆっくり交わりができたわけではなかったけれど、みんなのリラックスした表情と楽しそうな交わりの様子が印象的だった。

今回の集いのT&Yプログラムを通して僕が神様から教えられたことは、私たちが神様を第一としながら人に仕える中で、この地上においても神様が自分と自分の周りの人たちに与えてくださる恵みと祝福があって、私たちを通して神様の姿が証しされる、ということだった。兄弟たちから奴隷としてエジプトに売られたヨセフは、エジプトの地で主人や監獄の長に誠実に仕える中で彼らの好意と信頼を得て、結果的に彼らのものを管理する重要な勤めを任された。バビロンに連れていかれたシャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの3人はバビロンの異国文化の中で神様を第一にしながら忠実に王に仕えた。彼らの姿と彼らを守られた神様の御業を見て、王の命令に背いた彼らを王自身が賞賛し、神様をほめたたえた。私たちの人生はジェットコースターのように良い時もあれば悪い時もある。しかし、イエス様は既に私たちに勝利を与えてくださっていて、どんな嵐の中にあっても、イエス様を見上げることで平安をいただくことができる。「イエス様がともにいてくださる」という希望とイエス様の御霊の平安をもって、神様を証しながらこの地上での日々を一步ずつ歩いて行こう。

藤原 誠(ドイツ)



「しているおとな」ではなくて、「いっしょにかんがえる かみさまのこども」でありたい、とかんじたつどいでした。

ほうしをすることで、おおくのいのりとじゅんぴによってつどいがかいさいされたことをすこしですがしることができ、かんしゃです。かみさま、ありがとう！

かほ (スイス)



hope we have in  
Have you ever



今回の集いに参加出来たことを主に感謝！  
久しぶりに神様の家族に会えて、色んなお話ができて、嬉しかったです。

キリストにある希望を今回の集いで改めて思わされました。特に二つの点について励まされました。キリストにある希望はこの世界の希望と違って、誰も邪魔できないものです。永遠に続き、揺るがないものです。ただ、恵みによって与えられたプレゼントです。

ユースのスタッフとしての働きも恵まれました。本当に結局は私の奉仕ではなく神様のわざを体験しました。ただ感謝しかないです。

ヨハナ (スイス)



私は昨年11月にパリに赴任してきました。丁度直前の10月末にパリがロックダウンになり、到着から数か月間は、日も短い暗い季節の中で慣れない仕事をする大変さを経験しました。特に、私の赴任後には職場でも先例がない問題がいくつか発生して残業が続き、希望していたパリ駐在でしたが「神様、なぜ今なんですか？」という気持ちがありました。仕事がい通りにいかず、平日疲れてしまって毎週教会に通えないことが多い中でも、教会の姉妹たちが「祈っているよ」と言って下さる、そのとりなしの祈りに支えて頂いて、今回は集いにも参加できました。

患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。(ローマ5:3~5)

この御言葉を通して、「今の状況は、あなたが練られるために、あなたのために用意したものなんだよ。私があなをそこに遣わしているんだよ」と神様から語られました。

パリでの生活や仕事では、主が共におられなければ、私の力ではどうしようもないことが沢山あります。一つ一つの課題については、主が成して下さることに信頼して委ねるとともに、それらの課題が、益々神様の愛と主にある希望について知る訓練の機会として用いられることを信じます。

初めてキリスト者の集いに参加することができ、皆さんとの交わりや賛美の中で大変励まされました。ありがとうございました。

外岡南海 (フランス)





集いのオンラインプログラムに参加して今回、オンライン上ではありましたが、はじめてキリスト者の集いに参加しました。残念ながら全てのプログラムに参加することは叶いませんでしたが、そんな中でも主が語って下さったことについて書かせて頂きます。まず一つ目は、オンライン上での交わりについてです。聖書の学びのグループなどで、ユースのメンバーとは時々顔を合わせていましたが、集いのプログラムで久しぶりに会うメンバーもいるなかで、信仰や普段の歩みについてシェアできる仲間がいることは本当に心強いことだと改めて感じました。いつでも戻ってこられる温かい兄弟姉妹の交わりの中で、キリスト者としての特権について実感することのできた体験でした。次に、最終日のマイヤー先生のメッセージの中で語られた事についてです。嵐の中でイエスさまが「眠っておられた」ことについて、集いが終わってから思いを巡らせていた時に、ふと今年のユースキャンプで語られたエレミヤ書29章11節のみことばが浮かび、声に出して読みました。

**エレミヤ書 29:11**

わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている——主のことば——。それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。

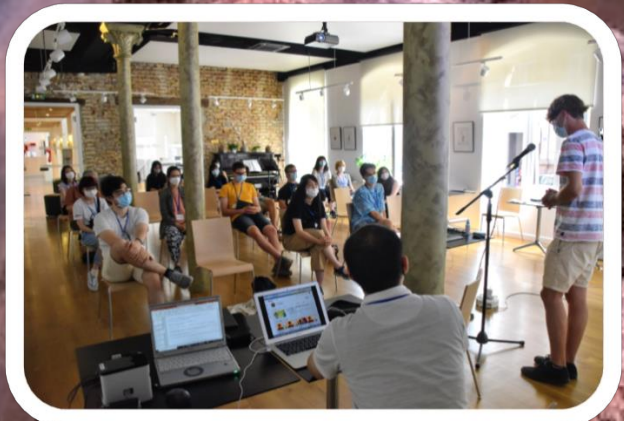
これから先、人生を歩む中で様々なことが起こる時、私の心はそれこそ嵐のように荒れ狂い、苦しい中を通らされる時もあるでしょう。その時にどれほど神さまの約束を握ろうと思っても、心の平安を保つことが難しい時があります。しかし、主が先に弟子たちの先を進み、全てをご存知で眠っておられたことを思い起こした時、改めてこのエレミヤ書のみことばが私に迫ってきました。全ての権威を持っておられる主に信頼する時、例えその時嵐の只中であつたとしても「将来と希望が与えられる」ことが予め約束されているなら、何も恐れることはないのだ、ということが心に響きました。むしろ一つ一つ歩む中で示されることを、感謝と喜びを持って受け止めようではないか。という思いが与えられました。

**1テサロニケ5:16-18**

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。

このコロナ禍にあって現地で集いが無事に開催されましたこと、本当に素晴らしいことです。心から主を賛美します。またこの集いにあたって多くの方々が多大なる労力をかけて準備してこられたことを覚え、主の豊かな祝福と報いがありますことを祈ります。キリスト者であることの平安と恵みを頂いた数日間に心から感謝致します。

深井愛記音 (日本)





わたしは今回の集いユースプログラム実行委員のメンバーでした。ユースの中には小さいころから毎年集いに参加している人がたくさんいて準備をする中でみんなの集いに対する想いが節々から伝わってきました。準備は忙しかったけれど、準備にみんなで携われたことが何より思い出に残りました。

コロナの影響で残念ながら現地参加は諦めてオンラインでの参加となりましたが、それでも今年の集いに参加することができて本当によかったです。集いだけでなく日々の生活の中で常に神様を実感し、神様を土台とする仲間とも同じように毎日つながっていたいと思います。

主にあって

渡邊航(ドイツ)

Pastor Yabuki's message from Genesis 39:1-23 spoke to me the most. The passage is about Joseph resisting the seduction of Potiphar's wife. The sermon could have well been about the characteristics of a godly man and woman, however, Pastor Yabuki had something else on his mind. First, he showed us a picture of his wife and himself on a rollercoaster. His main point: life is a rollercoaster. The life of Joseph is a prime example of a rollercoaster ride. Deep lows and great highs. At one point a slave, then a top manager of a wealthy household, accused if sexual assault and put in prison, forgotten for a long time and finally, rises to the position of Second-to-Pharaoh. Many people have seen their own life go up and down like Joseph's, and so have I (thankfully, not to the same extent as Joseph). At this point, I took away the importance of accepting the reality of life. Yes, there will be good times, and yes, there will be not so good times. But thankfully, we are not alone on the rollercoaster. Gen 39:2 starts with "The LORD was with Joseph." Joseph was not alone on his ride, God was with him. God is always with me too. He is present through his Spirit, His ears and eyes. The challenge is to believe it at all times. Thank you Pastor Yabuki for your message.

ミヒ(ドイツ)

### 変化と挑戦

前回のルーマニアでの集いは、二度目の参加であっても初めてと同じ様なものだったので周り馴染むのに時間がかかりましたが、今回は既に友達がいた事で早く溶け込めました。

初めて奉仕を頼まれて、内容を甘く見ていた事や責任感で心配でしたが、サポートがあったので安心しましたし、いざ自分が当番になったらとても楽しかったので良かったです。コロナのために作られた「食事案内係」なので長続きはしないと思いますが、これを機に他の奉仕にも、もしお願いされたら前向きに取り組もうと考えました。

ユースのプログラムでも初めての挑戦がありました。それは皆の前で聖書箇所を読む事でした。自分もやってみたいな、という気持ちが実は少しあったので、お願いされた時は嬉しかったです。

次回の集いも楽しみにしています！

ピーケンブロック恩恵(ドイツ)



## それぞれの賜物に感嘆！

### ピーケンブロック伊登 ベルリン日本語キリスト教会

「集い」初日の夕べ、第一回講演会の賛美が始まったとき、わたしは歌わず、周りの歌声を聴いていました。2メートルの対人距離を置かず屋内で歌うなど、1年半もの間、禁止されていたので怖かったのか、素直に声が出なかったです。

講演後の賛美ではメロディをただハミングしていました。2日目の早天祈禱会。窓から入るちよっと冷たい朝の空気を感じながら、やっとみなさんの声に合わせて歌えるようになりました。固まっていた心が溶けていくようでした。



「今回の集い、ほんとに大丈夫かな」と疑いながら自分はストラスブールにやってきたけれど、実行委員、コロナ対策委員の方々が神さまに委ねきって準備されたこの「集い」を感謝して、わたしも神さまに委ねて、この信じられないようなめぐみのときを味わい尽くそう、と心から思いました。

「集い」の4日間、みことばの集中的な学び、賛美はもちろんのこと、兄弟姉妹と共にいただく美味しい豊かな食事の時間、委員・係の皆さんのお知らせ、啓発的かつユーモアたっぷりに話される石引氏の市内案内など、神さまがそれぞれに下さる賜物に感嘆しながら、素晴らしい数日をご過ごささせていただきました。本当にありがとうございました。

主の恵みふかきことを味わい知れ、主に寄り頼む人はさいわいである。(詩篇34篇8節)

## 実は神様のご計画でした

### 向井ひか梨

#### ストラスブール聖書のお話を聴く会

2021年キリスト者の集いにおいて、コロナ対策委員長を務めさせて頂きました。準備の困難もさることながら、開期中にもフランスの感染者は45000人を超え、ドイツへの帰国の国境の法律は変わり、街中では大規模デモが繰り広げられるという、騒然とした状態でした。

そんな中でのコロナ対策委員を、集い開催の数週間前に依頼された時は、賛美奉仕ぐらいしかしたことのない私が務めることは不可能なように思いましたが、神様が事前に準備し、備えてくださったように思います。



遡ること6年。

私はドイツで音楽留学していましたが、2015年のプラハでのキリスト者の集いをきっかけに、ストラスブールに拠点を移しました。

当初、ストラスブールではアルバイトが見つからず、経済的な必要を神様に祈ったところ、旅行関係の仕事が与えられました。夏ごとに100人程の日本人観光客がストラスブールを訪れ、その滞在のお手伝いをする仕事(というまさに今年の集いと同じ条件の予定演習)が与えられ、それで学費が賄えるという生活が、4年間続きました。

そしてコロナ禍が始まると、声楽の活動は困難を極めました。どうすれば感染対策ができるかを徹底的に調べ、活動が継続できるように模索しました。

その旅行業とコロナ対策の経験が、今回の対策委員の働きの大きな助けとなりました。私が今回の集いのために準備したのではなく、神様が準備を進めてくださったことに、大きな感動を覚えました。自分のためと思って取り組んできたことが、実は神様のご計画で、その一部をお返しできたことは、大きな喜びです。

皆さんが快く協力してくださったこと、また2年前から準備をして来られた実行委員の方々がお力を貸してくださったこと。私より何倍も人生経験も奉仕経験も豊富な先輩方が、いつも励まし、助けてくださり、本当に感謝でした。

コロナ禍ではありますが、キリスト者の集いが開催されたことは、私にとって意義あるものでした。コロナ禍により活発となったオンラインでの交わりで知り合った方々と、実際に顔を合わせて礼拝したり、食卓を囲めたことは、大きな喜びでした。もうしばらくは続くであろうコロナ禍ですが、今回の更に深まった絆により、オンラインでの交わりも一層深いものとなっていくと思います。

来年の集いでは、コロナ対策委員は必要ないことを祈りつつ、でもどんな状況にあっても導いてくださる神様に期待しつつ、皆さんとお会いできることを楽しみにしています。





## 神の家族 高木恒輝

パリプロテスタント日本語キリスト教会

私は、2020年の8月31日に日本からパリに赴任し、家族四人で1年余りこちらで生活しています。日本にいる間から導きのあったパリプロテスタント日本語キリスト教会に9月の礼拝から参加し、転会手続きを経て今は会員として集わせていただいています。

今回の集いは、私にとってとても貴重な機会でした。というのも、9月からこちらで教会生活を始めたものの、10月にはロックダウンとなり、2021年7月になるまでZoom礼拝で、兄弟姉妹と面と向かって交わる機会がほとんどなかったからです。



ほとんど画面越しにしかお話することがこれまでなかったパリ教会の兄弟姉妹、そして、初めてお会いするヨーロッパ在住のたくさんの兄弟姉妹。一定程度の感染対策による制約はありながらも、このように多くの兄弟姉妹と知り合い、語り合い、ともに楽しみ、思いを共有し、祈りあうときが与えられたのは本当に感謝、幸せでした。

集いの中で「神の家族」という言葉があったのをとても印象的に覚えています。私たちはイエス・キリストにあって一つ、神の家族です。改めてそのことを強く実感した機会でした。イエス様の大きな愛に包まれて、皆様と素晴らしい4日間を過ごすことができた恵みに感謝します。

パリ教会は会堂での礼拝が始まりました。集いの中で味わった神の家族としての豊かな交わりを教会生活の中でさらに深めていければと思っています。また今回知り合えたヨーロッパの兄弟姉妹にまた来年お会いできるのも楽しみにしています。

## 主が最善の道を用意される 大塚琴枝

ベルリン・テンペルホーフ日本語集会

今回初めて参加させていただきました。国境近くとはいえ、旅行制限のある中で初めてドイツの国境を越えるので、正直なところ参加するかどうか迷いましたが、始めから最後まで神様が皆の健康を守って下さり、さらに、現地で数年ぶりに母教会の幼なじみと再会したり、新しい信仰の友と出会ったり、オンラインでしか知らなかった方と初対面したりと、期待以上の癒しのひとときを与えられました。

普段は近所のドイツ語の集会に通っており、そこで神様から多くの信仰の友と御言葉による励ましを与えられていますが、日本語で御言葉を聴き、互いに分かち合う時間もまた味わい深いものでした。

まさに、今回のテーマ聖句『わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている…それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。』というエレミヤ書の言葉を体験できたと感じます。

今回参加が叶わなかった方、色々なことを考慮して不参加を決めた方、迷った末に参加を決めた方、様々な祈りと決断があったと思いますが、いずれの決断であれ、神様に祈って得た答えはいつでも私たちに祝福をもたらすものであり、主が一人一人に最善の道を用意してくださるから心配する必要はないのだ、と改めて思われます。

最後に、細心の注意を払って感染症予防対策にあたってくださった準備委員の皆様のお働きに心から感謝します。ありがとうございました。



## キリストにある家族 阿部知幸

パリプロテスタント日本語キリスト教会

今回が初参加でしたが、まるで昔からお互いを知っていたかのように受け入れていただき、すぐに打ち解けることができホッとしました。神の家族の温かさを実感できて感謝です。ヨーロッパに来てから2年になりますが、これほど多くの在欧日本人クリスチャンの方々、また、日本人ミニストリーに携わっている方々と会うのは初めてだったので、参加できたこと自体が大きな喜びであり、励ましとなりました。

新たな出会いが嬉しかったのはもちろんのこと、これまでオンラインでつながってきた方々との久しぶりの再会、または初めての生での対面には感慨深いものがありました。ある程度関係が築かれていれば、オンラインでも深くつながることもできますが、自分の場合、まだ関係が浅い方々とは、やはり直に会った方が、お互いの理解が深めやすいというのが今回感じたことです。食事をしたり、散歩をしたり、雑談をするといったカジュアルな時間を共にすることで、それぞれの個性や魅力についての、新たな発見があり、これは今後につながる貴重な体験でした。

ユースの皆さんと一緒に時間があつたのは一つのハイライトです。若い力によって良いダイナミズムが生まれて、集まり自体が活性化されていたように感じました。

コロナ禍という特殊な環境の中での開催には、準備の段階から多くのご苦勞があつたことと思います。この集いのために労してくださったお一人お一人から感謝します。



## パンデミックを超えて

川井勝太郎

ルーマニア・クルージュ

今回のキリスト者の集いほど、多くの思いや祈りに支えられて開催された集会は近年なかったのではないかとと思う程に充実した集会だった。ある意味で大きくなりすぎて、最初に欧州在住日本人キリスト者の小さな修養会として始まった原点から大きくそれて、いつの間にか日本から世界中からの訪問客も入れた夏のイベントみたいな所を、図らずもパンデミックという状況を用いて神様がすっきりさせてくださった。

参加者は例年よりも少なかったが、本当にみんなで集いたいと思う欧州在住のキリスト者だけで、集いを開催できたことに不思議な導きを感じています。まだ十分に収まっているとは言えない状況の中で、東欧ルーマニアから2日の時間を掛け、車で片道1500kmの行程を4つの国境を越え移動する事には大変な勇気と決断が必要でしたが、確かに祈りの内に主が導いておられるのを感じておりましたので、何があっても辿り着く気持ちで出発しました。

初日の夕方にウィーンに着いて、ルーマニア人教会でご奉仕をさせて頂きながら、暖かい兄弟達の支えがあって生かされていることに霊的な感動を新たに覚え、現時点で感染者数の少ないルーマニアから、まだ規制が厳しく感染者も多いフランスまでの道で、検問にも止められずに比較的スムーズに進めたことは恵みでしたし、驚きでもありました。



ただ、試練は到着すると同時に始

まりました。ドイツのシュトゥットガルト近郊あたりで、車の排気管が外れ、アクセルを踏む度に大きな音を立てるようになりました。何分古い車ですが、この様な故障は今まで体験したこともなく、無事に到着はしましたが、果たして帰れるのか心配になって来ました。

普段なら、現地にあるルーマニア人の兄弟に連絡を取って助けて頂くことを考えるのですが、感染対策を強化しての集いという状況を考えれば、日曜日に終わるまで外部に連絡を取らない方が安全だと判断し、奉仕とつどいに集中する事にしました。

しかし、朝夕祈りの内に主に頼っている時に、主の不思議な想いが与えられ、全く予想だにしない方法で道を開くと語られました。

金曜日の午後に自分の奉仕が終わって、車の修理や帰りの事、所持しているお金も帰りのガソリン代程度でどうしようという思いに駆られてしまい、色々な方に相談

してみたり動けるだけの事をしてみました。まず集いの参加者の方々から個人的にも暖かい献金を頂き、私達の帰路の為にも礼拝で特別に献金を集めて下さったり、つどいにこれ程までに助けられたことは今までにもありませんでした。

ある意味主からこのつどいに集まっている敬愛する兄弟姉妹との絆が形になって示された様な気がして、心に刺さる程ありがたい気持ちで会場を後にしました。

日曜日の午後にはルーマニア人の教会にも行きましたが、そこでも献金を頂きました。ドイツでの規制を気にして、日曜夜には越境シケイルという街で投宿しましたが、翌日のお昼には、親切な宿の管理人さんに紹介して頂いた個人経営の修理工に掛け合う事が出来て、なんと火曜日のお昼には車は修理されていました。

宿の管理人さんはギリシャ人、修理工の若い経営者はカザフスタンの人だと聞いて、主の不思議な導きで、思いもよらない人々を備えて短期で修理できたのも、奇跡としか言いようのない流れでした。特にカザフスタンの修理工は、夏休みで人手が無く忙しい所を私の必要を考慮して、優先的に修理してくれたのです。



「自分も良く旅をするが、旅先で困った時に誰かに助けられたから」と言って笑って記念写真を撮った時には、人の後ろに働いておられる優しい主の御手を感じて涙が出る様な思いでした。

帰りも2日かかり、リンツ近郊の友人宅で泊めて頂き、水曜日の夜にはルーマニアに帰り着くことが出来ました。多くの方々のお祈りとご支援に支えられてまた宣教地に戻って来ましたが、毎回かなり遠く、東欧からつどいに参加し続けて20年以上、考えてみれば、沢山の方々にかわいがられて、つどいから沢山の恩恵を受けた者の一人です。

あまりの恵みにただ感謝、支えて下さった欧州の敬愛する主に在るつどい仲間の兄弟姉妹にこの場を借りてありがとうございますの一言、そして尽きることない感謝とこれからも共にこの絆を主に在る証しとして、つどいを通して紡ぎ続けて行けるなら、第50回ぐらいまで、あと12年、生かされていれば65歳、関わり続けて行きたいなど、少々欲が出てきました。

パンデミックを乗り越え、キリストにある希望を握りしめ、欧州という地に生きる日本人信仰者として輝き続けたいと感謝の内に思いました。

この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。（ローマ人への手紙 5：5）





みことばに養われ

今井 朗

Bible&Worship  
Stuttgart

私達夫婦は転勤で2020年8月末に16年間住み慣れたシュトゥットガルトからミュンヘン空港北側の古い町Freisingに引っ越しました。

長らくコロナ感染の規制により新天地で新しい方との出会いや兄弟姉妹との交わりが持てない状況が続いていました。今回のキリスト者の集いで皆さんに久しぶりにお会いできることを楽しみにしていましたが、コロナ禍による渡航規制により残念ながら参加を断念しました。しかし、運営委員会のご配慮によりZoomでの参加が企画されて、3回の講演に参加することができました。そして、愛する皆さんと共に賛美し、み言葉を共有できたことを心から主に感謝します。



今回は若い方々が集いの運営に直接加わり、多くのユースの参加者が与えられ、喜んで奉仕されていることがZoom画面から伝わってきました。

日本からの留学生、勤労青年、欧州で生まれた若者世代がイエス様の愛に出会い、互いに祈りあい、支えあう姿は本当に美しく、多くの参加者の励ましになったことを確信しています。

最後に欧州キリスト者の集いの開催にあたり、日々変化するコロナ規制の中、神様から知恵と聖霊の力を得て、素晴らしい集いを企画、運営くださった運営委員会の皆様、並び教職者の方々に心から感謝申し上げます。

これからも欧州に在住されておられる方々との主にある交わりを深め、互いに励ましあい、共にみ言葉に養われて、成長して行きたく願っております。

「イエスよ、わたしたちは、ひとつになりました。互いに仕えることで、ひとつになりました。兄弟がひとつになることはなんと楽しく麗しいか、それは主が命の祝福を命じられたから。」アーメン



心は共にあり

馬場晶子

ロンドンJCF

英国に居住して以来25年家族とともに集いに参加することが我が家の夏の楽しみでしたが、昨年はコロナ禍

の中で中止となり、今年こそはと一番に申し込みました。が、英国の感染状況は日増しに悪化し、不要不急の海外渡航は禁止され、7月初旬泣く泣くキャンセルしました。

当初集いそのものの開催も危ぶまれていましたが、主の許しの中、ヨーロッパ在住の方たちは国境を越えて、2年ぶりに参加可能となり羨ましく思いました。



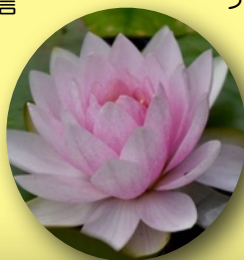
EU離脱によって英国在住者のフランス入国規制は他国より難しくなり、これも私たちに課せられた試練かしら?と思いましたが、主はこのような中でも恵みを届けてくださいました。

集い開催直前になって、キャンセル者に対しzoomによる「ハイブリッド配信」の知らせが舞い込みました。初めての経験で戸惑いがありましたが、金曜日の午後の講演に恐る恐るリンクをクリックしてみました！すると、懐かしい川井先生のお顔と力強いメッセージがポーンと飛び込んできました。嬉しくなってその後2回参加させていただきました。

画面には会場の様子が映し出され、懐かしいお顔が次々と現れ、思わずお声をかけたいほどでした。体は会場に存在せずとも、心は共にあり、あまりの嬉しさに図々しくも画面を通して感想など述べさせていただきました。

どこにいても、どのような状況下であろうとも共におられ、変わる事のない神様の愛を集いのzoomを通して確認することができました。このよう

な企画を可能にくださった関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、試練を通して働かれる主を賛美します！来年はあの世？からの参加ではなく、是非とも本物の皆様にお会いしたいものです。



懐かしい顔、顔

山田美弥子  
オランダ

この度はインターネットによる集いに参加させていただき、有難うございました。ここ2週間感想をお送りしましたが、何度か送り戻りでとうとう今日にまでなってしまう、これも神様の御旨かと神様の名を語って理解しています？

御言葉の解き明かし、祈り、賛美を共にでき、懐かしい顔、顔に、母教会の青年会の先輩との再会もネットを通して嬉しい時でした。

現在はオランダプロテスタントの教会員として毎週ネットでの礼拝参加ですが、近く教会での礼拝参加ができることを願い、祈っています。ご奉仕くださった方々のことを覚え、感謝の祈りを捧げます。

主はよいお方

山内幸子  
パリプロテスタント日本語キリスト教会

今年のキリスト者の集いは初めて夫婦での参加、また娘夫婦も共に参加という夢のようなことがかなうことをとても楽しみにしていました。キリスト者として家族で互いに成長し合う時になるに違いないとワクワクしながら開催の日を待ちわびていました。

ところが...開催日直前に娘がコロナに感染していることがわかり、

住まいを共にしている私たち家族全員自宅隔離を余儀なくされることになりました。いろいろな思いが頭の中にいっぱいになって何も考えられずただ目の前の私に与えられた仕事、娘の看病と他の家族への感染を無くする為の様々な処置や家族の日常の世話を黙々とやるしかありませんでした。

自分の身にこのようなことが起こったことで今まで以上にパンデミックの恐ろしさを知りました。現在も世界中の国々のリーダーたちが必死になって対策をしていることなどに対して甘い考えであったことを恥じ



ました。私たち家族が心から楽しみにしていた夏の計画はすべて閉ざされてしまったように思えました。

しかし神様の御思いは私たちの思いよりもはるかに高く、必ず私たちに将来と希望を与えてくださると信じました。それで、それまで以上にキリスト者の集いについて祈るようにもなりました。

自宅でZoomを通して集い開会の時を迎えた時、鳥肌がたつほどうれしく喜びが溢れてきました。会場にいらっしゃる皆さまと一体にされているようでした。祈りを聞いてくださる方は真実なお方であると改めて確信しました。

各先生方の講演をZoomを通して聞かせていただき、幼少科の奉仕もZoomでやらせていただいて、豊かな恵みのおこぼれ



をいただけたこと感謝でした。私たちにはそれで充分でした。最終日の礼拝には娘も熱が下がり私たち夫婦と共に娘夫婦も参加させていただきました。喜びに満ちたひと時でした。

後日、娘夫婦と私たち夫婦4人で毎夕食後聖書の通読と分かち合いを持つようになったというこの上ない恵みにあずかる幸いをいただいています。

主はよいお方です。真実なお方です。祈りを聞いてくださるお方です。

「...それはわざわいではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」エレミヤ29:11

最後になりましたが、この集いの開催のために労してくださった準備委員会のおひとりおひとりに心から感謝いたします。そしてヨーロッパに住んでおられる

日本語を話すクリスチャンたちと  
そのご家族、ご友人方に豊かな主からの祝福がありますように祈り続けています。さらにその方々を通してヨーロッパ中に福音が宣べ伝えられますように祈ります。感謝して、祈りつつ。





## 「コロナ禍という試練には どんな意味があるのだろうか？」

原憲二

スイス日本語福音キリスト教会

まずは実行委員、コロナ対策委員、奉仕者の皆様に心から感謝いたします。今回の集いを開催するにあたりコロナ関連で例年の何倍もの苦労があったことと察します。にもかかわらず、衛生管理や各種案内の準備は周到にされていて、説明もわかりやすく、まったく混乱なく安心して4日間を過ごすことができました。

また、実行委員長の安藤里佳子先生のもとで主催者が企画されたテーマと先生方の講演は、これからの私たちの歩みに重要な布石になるのではと実感いたしました。

「嵐を納めてください」とだけ主に祈り求める者にイエスは「信仰の薄い者たち」と言われます。(マタイ8.26)「試練には意味がある」。試練のただ中にこそ主が与えてくださる真の平安、さらには力があると、素晴らしい一連の講演で教えられました。

では、今私たちが直面しているコロナ禍にはどんな意味があるのだろうか、みことばから示されたことを分かち合いたいと思います。

旧約時代に神はイスラエルの民へ預言者を通して、何度も警告とともに立ち返る機会を与えてくださいました。ある時は敵国からの侵略をもって、ある時は疫病や飢餓といった天災をもって、主は滅ぼすと裁きを宣告しながら、同時に民が立ち返ることを望んでられました。

「もし、わたしがわざわいを予告したその民が立ち返るなら、わたしは下そうと置いていたわざわいを思い直す。」  
(エレミア18.8)



ここに神様の深い哀れみを覚えます。現在もこの愛によって私たちは生かされていることを覚えて感謝に堪えませ

ん。

さて、聖書にある「疫病」を検索してみると58回以上あり、主語はすべて「わたし」「主」、あるいは主が裁きのために用いられた「敵」であることを発見します。そうしてみると、私たちが現在直面している世界的災禍も主が起こされ、主が立ち返ることを望んでおられるのではないかと受けとめます。そしてそれは誰に向かってか？私は、私たちクリスチャンに向かって主は立ち返れとおっしゃっているように思えてなりません。

当時のイスラエルの民は偶像礼拝に陥り、歴代の多くの王は「主の目に悪を行った」ことが罪でした。では現在の私たちはどうでしょう。私たちクリスチャンも当時のイスラエルの民が陥ったように救われるという契約に

甘えて偶像礼拝に陥ってはいないだろうか。私たちは木で彫った像を拜んでいるわけではないけれど、神を自分の都合の良い神に変えてはいないだろうか。自分が良いと信じて行っていることは、神の目にかなっていることだろうか、と問うのです。信仰深いダビデでさえ神の目に悪しきことを行ってしまいました。(歴代誌121.7)

ダビデは預言者の忠告も押しつけて自分の良いと思う人口調査を強行したとき、主はこの罪の故に三年の飢餓か、三か月の敵の剣か、三日の疫病がよいか、一つを選べとダビデに裁きの宣告をされました。人口調査がここまで大きな罪という事かと思いましたが、考えれば、与えられた主の恵みに満足せず(むさぼりの罪)、みことばを無視した傲慢という罪と言えるでしょう。疫病でイスラエルの民7万人が倒れた時点で、主がこれ以上の裁きを止められたのは、ダビデの悔い改めの祈りと、捧げた全焼の生贄があったからでした。主はこれを受けとめてくださったのです。ダビデはオルナンンの打ち場で神にこう祈りました。



「民を数えよと命じたのは私ではありませんか。罪があるのはこの私です。私が悪を行ったのです。この羊の群れがいったい何をしたのでしょうか。わが神、主よ。どうか、あなたの御手が、私と私の父の家に下りますように。あなたの民を疫病に渡さないで

ください。」(歴代誌121.17)

このような悔い改めができるとは、本当にダビデはずばらしい信仰者です。以前このところを解説されたある先生の言葉が印象に残っています。

「本当の失敗は、悔い改めの機会を逸する者である」。約束の民の国王という立場だからダビデの責任も重い、だから裁きも厳しいのだ、とも言えます。しかし私たちクリスチャンも祭司ともいわれ、主とともに御国の建設に加わっている者、この終わりの時代に重要な責任ある立場に置かれている者と言えます。

ごく最近、私自身も傲慢の罪によって、まだイエスを知らない隣人につまずきを与えて、福音伝道にブレーキをかけたことを示されました。時は迫っています。福音を阻止するサタンの惑わしも増えてくるでしょう。終末に向かう備えとして、主は私たちに生ぬるい信仰は捨て、みことばに立った堅い信仰に立ち返るようにと、私たちに警告と共に、期待をもって試練を与えておられるのではないかと思います。

全焼の生贄に代わって、イエス様が私たちのために自ら十字架に向かわれ、贖いの血を流されました。私たちは自分の罪を告白できた時、このイエス様が心に迫ってきます。

ここにこそ、真の平安があり、同時にイエス様の愛に押し出されて立ち上がる聖霊の力が与えられるのではと思うのです。



## 「何と大きな神のご愛とご計画」

富永重厚

パリプロテスタント日本語キリスト教会

第38回ヨーロッパ・キリスト者の集いがストラスブルで7月29日から4日間持たれました。私も実行委員の一人でしたが何と多くのことがあったことでしょうか。集いが無事終わった今、すべてが大きな神さまの憐れみとご愛のみ手の中にあったことを思い返しています。

開催時期が近づき欧州各国のコロナ禍は収まるどころか感染力の強いデルタ株の急速な拡大によりますます先が見えなくなる中、フランス政府は7月21日以降50名を超える集会は「衛生パス」の確認義務を大統領令により発令しました。開催



実行委員から



日の僅か9日前のことです。しかもその確認義務は会場であるCiarus側では無く、主催者である集い実行委員会にあることが分かりました。

もしクラスターが起こればその責任は計り知れません。会場であるCiarusと交渉を続けてきた私としてはその責任に押し潰される思いでした。

幸い89名の参加者全員がワクチン接種証明かPCRテストか抗原テストによる陰性証明を持参して下さいました。絶対にクラスターを出さないことをめざし、コロナ感染対策委員長を引き受けて下さったストラスブル在住の向井ひか梨姉が実に詳細なコロナ対策マニュアルを作って下さり、開催中も皆様の協力を何度もアピールして下さいました。

参加者の皆様に窮屈な思いをさせてしまったと申し訳なく思いますが全員がよく協力して下



さいました。そして不安で押し潰されそうな私に神さまはこの集いを通して語って下さいました。

エシヤ書29章11節から「キリストにある希望」がテーマに掲げられました。

天地を創造され、罪の中にあつた私たちを憐れみ、独り子イエス・キリストをこの世に人としてお送り下さり、罪の贖いのため十字架にまでつけて下さるほどに私たちが愛しておられる天のお父さまが、何故コロナ禍を全世界にこれほど長期に亘り許しておられるのか私には理解できませんでした。

どこに私たちの希望があるのでしょうか？

集いを通して神さまが如何に深く私たちを愛して下さい、神の民とされた私たちすべてがイエス・キリストの十字架と復活による「永遠の命」を与えられ、最後は「もはや死はなく、悲しみも叫び声も、苦しみもない」新天新地に入れていただける絶体的な希望を持つことが許されていることを教えて下さいました。



私たちの苦しみをすべて知っていて下さる主がどんな状況にあつても私たちをご自分のご計画の中において下さり、そのご計画を一歩一歩完成に向けて進めていて下さることを深く覚えることができました。

今私は神の民とさせていただいた恵みと深い慰めと平安の中にいます。この集いに参加したいと願いつつもコロナ故、心ならずも参加をキャンセルされた多くの方々のお気持ちを思います。

来年の集いこそ皆が集えるよう祈っています。





## 希望はいまここにある

安藤里佳子

ミュンヘン日本語キリスト教会

既に日本に帰国していた私が実行委員長を務めさせて頂くことになったのは、コロナ禍という特殊な状況、そして1教会の主催から複数の教会の協力によってなされることになっていく、移行期間ならでのことでした。

2020年の初頭、コロナの影響が広がりつつあった時、様々な調整を経て実行委員会がスタートしました。

第1回目の話し合いは4月に行われました。それ以来1度も実際に集まることはなく、すべての相談はZoomによってなされたことも、今回の特徴と言えることでした。2021年明



実行委員から



けての欧州での感染拡大を鑑み、オンラインなら参加できるという声を聞き、私は早々にオンライン開催を思い描いていました。

配信奉仕チームだけがどこかに集まってやるという構想も考えていました。そんな中で最後まで現地開催を目標とすることができたのは、共に実行委員をしたメンバーの強い意志があったからで、私1人で準備をしていたら、とっくにオンライン開催になっていたと思います。

感染対策が後手後手になってしまっていた時に「感染対策委員会」が立ち上がったことも、本当に力強いサポートとなりました。ぎりぎりではありましたが、Zoom参加のための体制を整えることができたのも、主が働き人を送って下さったからです。思い返してみれば、感謝なことばかりでした。

主にある希望は私達の只中にある、そのようなことを気づかせてくれた集いでした。そしてこの希望が今後も続くことを祈ります。

(実行委員長)



## 溢れんばかりの愛と恵み

松林幸二郎

スイス日本語福音キリスト教会

今回の集いほど開催地が果てしなく遠くに感じたことは、過去にはなかったことです。第38回の集い開催は最後の最後まで危ぶまれました。しかし敢えて遠く困難な道りを経て参加された89名の信仰の友は、2年ぶりに顔と顔を合わせて、共に主を賛美し、周到に準備された各講師の講演から大きな恵みを頂きました。まことに、今回の集いほど主の憐れみと溢れんばかりの愛を実感したことはありませんでした。

2年前、伝統ある信仰の遺産ともいえる”集い”は、主催教会が名乗り出なかったため存亡の淵に立たされていました。集いに思い入れと愛を持つ3人の兄弟が集まり、将来を背負う次世代のためにも続けていけないものかと熱を込めて語りあいました。いずれも集いが膨大なエネルギーと時間とパッションがなければ実現できないことを熟知したものばかりですから、容易な決断ではありませんでした。そこにスイスの若者が大人がしないなら僕たちの手でやりたいと、若らしい新鮮な信仰に裏づけられた情熱が、決断に躊躇する大人の背中を押してくれました。

その情熱が教職者にも伝わり、実行委員会に加わるひと、祈りで支える人が起こされ、4つの欧州日本教会から、志と多様な賜物をもつ7人の委員が召され、パンデミックという未体験のなかで未曾有な状況のなかで準備作業に取りかかりました。”主よ、それでも集まるということは、あなたのご意思ですか”と問うことは、感染の深刻化のなかで、委員の胸のなかにあったことと信じます。

いつもなら邦人クリスチャンと伴侶のヨーロッパ人とその家族が200名から300名近く集まる集いですが、この困難のなか、申し込んだのが150人もあるということは、実行委員に勇気を与えてくれました。しかし、開催日が近づくにつれキャンセル者が増え最終的には参加者は89名となりました。参加を断念された申込者にはオンラインでも参加できるハイブリット方式を若者の技術で成し遂げられました。(参加者51名)

一人の陽性者も出さぬというチャレンジのために、主は開催地の地理を熟知する姉妹を送って下さいました。彼女らの周到な準備と期間中の細やかな心遣いで一人の感染者も出さず、主に栄光を帰すことが出来たのは、言葉に言いつくせぬ主の憐れみと恵みで、誠に感謝に耐えません。ハレルヤ!



## 祈りは聞かれる

清水勝俊

南ロンドン日本語キリスト教会

今回こうして無事38回目のヨーロッパ・キリスト者の集いが主の御恵みのうちに行われたことを、心から主に感謝し、御名をほめたたえます。

私が今回の集いの働きにかかわらせていただいたのは、今思えば、本当に不思議な主のお導きと恵みであったように思います。思い返せば、一昨年秋に行われた欧州教職者研修会では、今後この集いの主催教会が見当たらず、存続が危ぶまれている中、ユースの方々が継続的に集会を持つことを願っているが、自分たち自身では担いきれないということ、また、これをサポートしようと、



いくつかの教会の信徒の方々が一生懸命祈っているということをお聞きしました。

私は、このことを聞いて深く心に痛みを覚えました。ちょうど、研修会では定期的に教職者の間で持たれていた祈

禱会について、これからどうしようかとも話し合っていたところだったのですが、信徒の方々が願い、熱心に祈っているのに、この欧州の日本人キリスト者のための宣教に遣わされている教職者の私たちが祈らずにはいられようかと熱く思われました。

それは昼食の場のことでしたが、そのテーブルにいらしたマイヤー先生や安藤先生など数名の方々と話して毎月祈禱会を持つことになり、これが半年後、今回の実行委員会へとつながって行きました。



一方、一昨年のルーマニアでの集いの代表者会議で、今後の集いのあり方について各教会で考えて提案するよう呼びかけられましたが、参加した南ロンドンの教会の方々とも話し合いました。

昨年の代表者会議では、南ロンドンの教会からは、これまでの一つの教会が単独で主催するやり方ではなく、複数の教会から有志を送り、共同で設置する実行委員会を持って開催していくことを提案し、この提案が18教会全会一致で賛同・承認されることになりました。

さらにはコロナのパンデミックの中で、多くのことが初めての試みとなりチャレンジの連続でしたが、主はすばらしい知恵ある7名の実行委員の方々をお与えくださいました。みなでみこころを祈り求めつつ、進んで来ましたが、思い起こせば、常に主が先立ってくださっていたことを覚えます。

「キリスト者の希望」とは何か。今回改めて私たち信仰者に与えられているこのすばらしい希望について思わされています。4日間の集いを通して、主ご自身がお存分にお語りくださったと思います。それは主とともにあって、いかなる困難にあっても変わらぬ希望です。



これからも私たちの救い主イエス・キリスト、このお方だけに希望を置き、寄り頼み、信じて歩んで行きたいと願わされています。

(オンラインにて参加)



実行委員から







## 希望は尽きない

上野浩子

南ロンドン日本語キリスト教会

「現地開催をすべきではない」――。開催地であるフランスのマクロン政権が7月初め、まさかの「衛生パス」導入を発表し、またたく間に強行導入されたときの正直な私の気持ちです。

4教会共催という初の試みだった今年の集いのため、ドイツ、スイス、イギリス、日本と世界各地に散らばる実行委員は毎月、オンラインで打ち合わせを重ねてきました。準備は終盤に入っており、一堂に会して共に主を賛美し、み言葉をいただくことへの期待も当然ながら最高潮に達していたときでした。が、昨年3月以降、コロコロと内容を変えつつ断続的に続いたコロナ関連規制に「衛生パス」が加わったことは、私が懸念していた全体主義的支配への方向性をさらに決定付けたからです。



そんななか、集いの全プログラムを「感染者ゼロ」のうちを終了できたのは、まさに奇跡！万軍の主による護りと「人にはできなくても、神にはできる」という力強いしるしであったと主を褒め称え、感謝する次第です。私たちの贖い主、主イエスにとって風や湖を鎮めることがたやすいことも日曜礼拝で力強く語られました。どんな状況下においても「主の平安」があるとの約束も、また然り。恐れや不安、疲労が増幅しているときには、強い慰めになります。

ただ、聖書は「世にあつての患難」（ヨハネ10章33節）についてもハッキリと記しています。集い終了後、欧州のバカンス繁忙期にあつて「衛生パス」導入の影響は甚大の一言。2023年5月までは治験期間にも

拘らず、遺伝子組み換え新技術mRNAの接種は今や各国で事実上、義務化。ドーナツ食べ放題やサッカー観戦券のプレゼントなどの特典で、青年層から中高生の「人体実験」参加が必死で促されています。一方、被験者になりたくない人は「接種拒否者」として社会悪とみなす意図的な世論誘導も水面下で進行、未接種者は既にスーパーで生活必需品を買うことすらできないという悪夢が、あの自由の国フランスで現実のものとなっています。

こんな信じ難い急変を可能にしているのは、「非常事態」を理由にした特別措置法。例えば、英コロナ法（Coronavirus Act 2020）は、「約2000年間に渡って培われてきた自然法や慣習法、第二次世界大戦後の基本的人権宣言につながった基本法の全てを、一気に吹き飛ばした。信じがたい、恐るべき悪法」（英陸軍勤め経験のある法律家アナ・ド・ビュイセレ氏、注1）と指摘されます。にも拘らず、駆け足審議で可決され、昨年5月に施行されてしまったのは、ひとえに「緊急性」の大義名分があったから。



地球規模で進む大接種計画は、

「人体実験を禁止したニュルンベルグ綱領（The Nuremberg Code 1947）に抵触する」として、各国政府や、世界経済フォーラム（WEF）などの国際機関や企業を相手どった、第二次ニュルンベルク裁判の準備も進んでいます。ドイツ銀行やフォルクスワーゲンの企業不正に対する集団訴訟で勝訴した敏腕の独弁護士ライナー・フェルミッヒ博士が中心となり、倫理観の高い医師や科学者、弁護士らの専門家千人超の大原告団によるものです。言論封殺が酷く、お耳に届いていないかもしれません。（\*注2）

今大会の主題聖句はエレミヤ書29章11節でしたが、エレミヤが綴った哀歌や、哀歌に通じる主の嘆き（創世記3章）も取り上げられました。エレミヤ時代の信仰者が真に神に立ち返ることを拒んだため、敵軍の手により、エルサレム神殿を崩落させることは既に主のみこころでした。



まさかの神殿崩壊後、舞台は本格的に捕囚の地パピロンに移ります。その異郷の地で、ダニエルの友人3人は火の燃え盛る炉に投げられ、ダニエルもライオンの穴に封じ込められるという試練に会います。

特筆に値するのは、たとえ神が救い出してくれなくても、この世の支配者が強制する偶像には決してひれ伏さない（ダニエル書3章17-18節）という強い決意と固い信仰がそこにあったこと。まさに、どんな状況下でも「希望は尽きない」という今大会の趣旨に通じる信念と言えます。しかし、死の影の谷を歩かされたことも、また事実です。さらに注目すべきは、捕囚の地から再び約束の地イスラエルに戻る前夜、ダニエルが捧げた祈り。当時の信仰者に、決定的に欠けていたことを指し示しています。



「私たちは、不義から立ち返り、あなたの真理を悟れるよう、私たちの神、主にお願いもせんでした」（9章13節）――。

私達自身がいま置かれた、この信じ難い、恐るべき悪法がまかり通る時代にあって、私達は果たして、私達の神である主に、主の真理を悟れるようお願いしているでしょうか？エレミヤ時代の信仰者のように「（幸いの道）を歩まない」「（角笛に）注意しない」（6章16～17節）、「私たちは救われている」（7章10節）と傲慢に言って、神からのさとしを拒んでいないでしょうか？角笛を吹き鳴らす日があることさえも忘却の彼方ではないでしょうか？

主の御前にあってユダヤ人と異邦人の区別はありません（民数記15章15節c、ローマ人への手紙10章12節）。日本語では「律法」あるいは「みおしえ」と訳されるヘブライ語「トーラ（モーセ5書）」が、心の割礼として、新しい心に新しい神の霊で刻まれ、守り行えるようになる（ヘブル書8&10章、エレミヤ36章、エゼキエル11&36章）ことが、新しい契約の究極的な成就であり、新旧一貫した聖書の立場です。

殉教者ステパノの述懐によると、神のみくいの基本法（トーラ）を頂いた直後に「金の子牛」という偶像礼拝の罪を犯した民の赦しを取り付けたモーセがシナイ山から再び降り、民を荒野で集めた時が「エクレシア（使徒行伝7章38節、ギリシャ原語の日本語訳は集会または教会）」の誕生のときなのです。

国の為政者が暴走して悪法を定め、戦争に突っ走り、多くの民が犠牲になったのは、たった76年前の記憶です。為政者が再び暴走して悪法が作られ、多くの民が犠牲になろうとしている今。主の真理を悟れるように神にお願いできるかどうか――！？神が与えてくださったトーラは聖であり、正しく、良いもの（ロマ書7章12節）であり、霊的なもの（同14節）とパウロも言います。

聖書の言葉は聖書中の既出概念で訳すべきという鉄則を当てはめれば、ヨハネ14章6節は、主イエスご自身が自らをトーラの具現化、父なる神のみことばの受肉であると言われたことになります。そのうち最も小さなものでも、全てを守るよう教えられています（マタイ5章19節、同28章20節）。

歴史的背景や文脈を無視した短絡的な人間的理解で、図らずとも、神のみくいの基本法トーラを蔑ろにして、切り刻み、イエス様が打ち壊した隔ての壁とは別な分厚い隔ての壁を築いてきた置換神学の根深くて長い、広くて果てしなく高慢な罪を悟り、悔い改め、真に生ける神に立ち返り、真理を悟れるよう祈り求めるこそが急務であると思えます。

（ロンドンよりオンラインで参加）



注1：英陸軍勤め経験のある法律家アナ・ド・ビュイセ氏のインタビュー（英語）

<https://theukfreedomalliance.org/so-many-laws-broken-on-so-many-levels-with-senior-lawyer-anna-de-buisseret/>

注2：独弁護士ライナー・フェルミッヒ博士の公式ウェブサイト（英語）

<https://www.stopworldcontrol.com/fuellmich/>

上記リンクはいずれも、言論封殺の対象となっており、マイクロソフト社のWordからではリンクに繋がりません。「Brave」や「DuckDuckGo」などトラッキングや言論統制のない閲覧ブラウザにコピーしてご覧になられることをお勧めします。





## ユースとともに

藤原誠

## ミュンヘン日本語キリスト教会

私は、今から約2年前、2年後自分がヨーロッパにいるかどうか分からないまま、スイス教会のユースたちと一緒に集い2021のTeens and Youth(T&Y)プログラムの準備に携わることを決意し、そのことを神様に祈った。

そういうと聞こえは良いが、自分の目から見ればちょっと心配に思うところが多々あり、黙っていられず、お節介にもユースに首を突っ込んだ、というのが実際のところであり、事の始まりだった。

それからの2年間、スイス教会のユースメンバーを中心としたヨーロッパユースのコミュニティーに混ぜてもらって、定期的に行われているオンラインバイブルスタディーに参加したり、バイブルキャンプやオンライン集会を一緒に企画したりした。

荒削りだけれど正直で暖かい彼らの交わりの中で、自分自身ありのままに神様の前に出て行くことを問われ、悔い改めと霊的なリバイバルが与えられた。



集い2021当日まだ自分がヨーロッパにいたことが濃厚になった2021年の2月、残り半年間のヨーロッパでの時間と労力をこのユースコミュニティーのために捧げたいと

思い、T&Yプログラムのまとめ役を買って出た。それ以降、2週間祈って自分の意思で引き受けてくれた13人(+体調不良で抜けざるを得なかった1人)のユーススタッフたちと共に、10回以上の準備ミーティング/祈り会/みことばの分かち合いを重ね、スモールグループや参加者フォローアップのためのミーティングも行った。

半年間チームとしてもそれぞれ個人としても様々な試練を通らされながらも、最後まで13人のチームでハイブリッド形式のT&Yプログラムを企画・準備できたことは、ひとえにユーススタッフのみんなの協力と忍耐のおかげであり、神様が私たちに与えてくれた大きな恵みだった。毎回のミーティングの準備と取りまとめは大変だったが、ユーススタッフの人たちとの楽しいミーティングの時間は、私にとって喜びであり、時に慰めでもあった。

私のこの奉仕のために、ヨーロッパ各地から、そして日本から、多くの人が祈ってくださり、支えてくださった。この半年間の準備の中で、いったい何人の人に相談の電話をし、祈っていただいたことだろう。集い前の最

後の3ヶ月は特に、開催方法についての議論、コロナ対策とキャンセル対応、オンライン配信の方法などでほうぼうの意見の擦り合わせが難しく途方に暮れることが多くあった。

しかし、私はその中でこそ、神様の計らい、私たちの思惑を超えて神様がなさる御業の確かさを見させてもらったと感じている。自分の周りだけを見ても、集いの準備を通して、これまでの2年間自分がヨーロッパの別々のところで関わってきた人々がまるでパズルのように繋がられ、足りないところには人材が備えられ、それぞれに適切な集いへの関わり方が与えられていく様子を見て、コロナの感染拡大や各国の入国規制の状況も私たちそれぞれの思いも全てご存知の上で、主がこの集いのために遣わしてくださっていたことに恐れと感動を覚えた。



結局私は、直前はコロナ対応・実行委員会との連携・本大会との合同集会の準備に追われ、当初イメージしていたようにT&Yプログラムに仕えるというより、むしろ本大会に仕えるような形となったが、終わってみればそれも今回自分に与えられた神様の導きであったと感じている。

T&Yプログラムは、諸々の調整を経て、ユーススタッフたちの希望通りに、現地プログラムとオンラインプログラムを並行して行うハイブリッド開催ができる運びとなった。しかし、手探りで行ったハイブリッド集会は思っていたよりはるかに大変で、コロナ対応も重なって、当日のプログラム変更や機器トラブルも多くあった。

それでも、みんなで協力して楽しくT&Yプログラムを作り上げることができたことは、これまで一緒に奉仕をし、分かち合いをし、祈り合う中で築き上げられてきた互いの信頼関係があったからだと思う(機器トラブルの際にはオンライン側のユーススタッフの臨機応変の対応もあった)。責任を問い合うのではなく、互いを受け





入れ合い、助け合うユースの絆は本当に美しい。また、参加者からも、ストラスブルに來られなかった人たちともハイブリッドで一緒にできて良かった、という感想を多く聞いたことが嬉しかった。



このコロナ禍での現地開催の是非については賛否両論あると思うが、いずれにしても、2年ぶりにヨーロッパ各地の日本語教会の方々と手が届く距離に集

まって共に食事をし、共に賛美をし、共に祈ることができたことは、かけがえのない恵みだった。プログラム以外でも、対面で直接顔と顔を合わせて一緒に食事をしたり話したりできたからこそ生まれた絆や相互理解がたくさんあった。

困難はあろうともオンサイトで集まることの大切さを改めて思わされた。フランス国内で一日に何万人もの感染者が出て集い中にも各国の入国の規定が変わるような中、全員で100人近くの参加者がいたにも拘らず、4日間一人も陽性反応が出ることなく最後までプログラムを行うことができ、集い後も一人の感染者も出なかった(私自身は集い前後の1週間で1回のPCR検査、2回の抗原検査、4回の自主検査をした)ことは、奇跡的なこと

だった。その背後には、感染防止対策と陽性反応が出た場合の対応を入念に準備して下さったコロナ対策委員会の方々のご労があった。

そして何より、コロナ禍になろうとも一貫してストラスブルでの現地開催にこだわり続けそのために尽力して下さった実行委員会の方々の執念の祈りと熱意がなければ、私たちがオンサイトで集まれることは有り得なかっただろう。ヨーロッパに散らされている日本語を話すご自分の子どもたちがストラスブルに一同に集い、またどうしても來られない方々とはオンラインで時間を共有し、一人の父を共に賛美し、励まし合おうとする私たちを、天の父はどのような眼差しで見られてだろうかと想いを馳せる。

今回の集いのために見えるところ見えないところで尽力され奉仕をされた一人一人に、主の豊かな報いと祝福がありますように。私たちが主の愛のうちに結び合わされてキリストのからだとして一つとされ立て上げられていくために、ヨーロッパ・キリスト者の集いがこれからも主に捧げられ用いられていきますように。

"あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています。"

ピリピ人への手紙1章6節

